

長野県出身プロ野球人列伝（番外編）

丸山幸雄（2組）

久しぶりに65期のホームページを開けてみたら、面白い記事を見つけた。同級の上原昇君（2組）と野球部OBの田村栄治君（1組）の書いた「長野県出身のプロ野球選手列伝」3編である。第1編には上原君が私に気を遣ってくれたのか、叔父の丸山博（49期）のことを紹介してくれている。丸山博は高校時代、野球部で、選手経験は無いがマネージャーとして、社会人となってからは長年、プロ野球審判員の世界に身を置いた。

丸山博とほぼ同時代に、長野県出身でプロ野球選手から審判員に転じた人がいるのを思い出した。上原君と電話で話したら、その話を列伝の番外編として投稿したらと勧められた。

その人は松橋慶季（よしき）で、1934年生まれ、2015年に亡くなっている。松橋は長野北高校（現長野高校）出身で、同校では捕手として活躍。

同期にはプロ野球選手となった町田行彦がいる。

1952（昭和27）年に阪急ブレーブスに入団して、翌年国鉄スワローズに移籍している。プレイヤーとしては短かったが、当時の国鉄の大エース金田正一投手とバッテリーを組んだこともある。

1956年に現役引退すると、プロ野球審判員となり1988年まで務めた。

審判員としては「目玉のまっちゃん」の愛称で選手からも親しまれたという。当時の名鑑を見ると「この人の良さは声のすばらしさである。それに加えて熱心で、審判というものに正面から天職として真剣に取り組んでいるのは立派」と褒められている。

良く知られているエピソードとして、審判員として巨人戦に臨んでいた際、きわどいコースをボールと判定したところ、当時の巨人軍長嶋監督に「どこをみてるんだ！この出目松！」とやられた。松橋は長嶋に向かって「文句があるのか、このチョウゴロー！」と返した。長嶋が千葉県佐倉市出身ということから、佐倉惣五郎を意識した一声であった、これには長嶋も苦笑せざるをえなかったという。

【写真：松橋慶季さん】

（2020年10月30日記）

